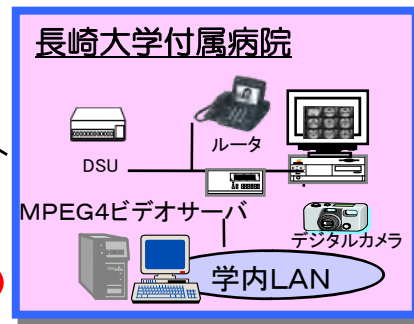
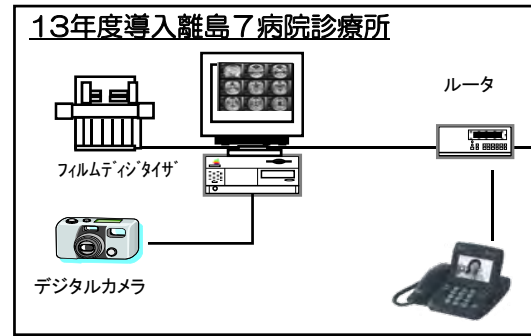
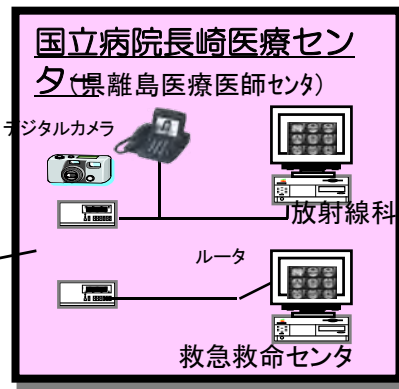
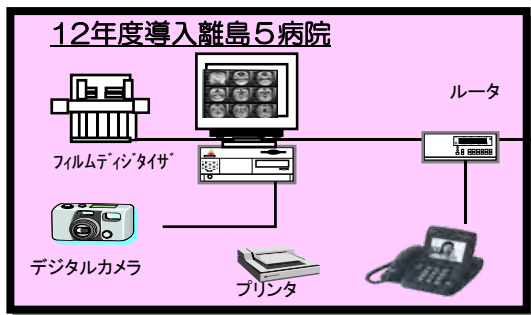


12・13年度構築済み



高速通信網

インターネット網

- ① 様々な画像の取り込み方法をサポート（直接受信など）
- ② 小規模DICOMファイリングシステムと各種検索
- ③ 画像転送はDICOMプロトコルでファイル転送
- ④ 医療施設間はISDN接続
- ⑤ 端末はパソコンを使用
- ⑥ 様々な画像表示・読影機能
- ⑦ 遠隔診断支援ツール
- ⑧ 診断依頼ツール（依頼書等）
- ⑨ テレビ電話

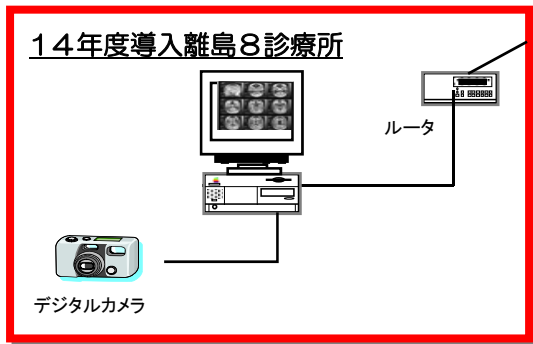
医療情報映像配信システム

- ① 国際標準のMPEG4で蓄積／配信し、WEBブラウザで利用
- ② 特別な講義、講演、MINCS放映のカンファレンス、病理や放射線等を画像蓄積し教材としても活用
- ③ マルチメディア情報提供としての活用

14年度構築

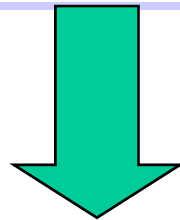
離島診療所(8診療所)

外海町池島診療所、大島村診療所、鷹島町立診療所、玉之浦町国民健康保険診療所、三井楽町国民健康保険診療所、新魚目町国民健康保険診療所、新魚目町国民健康保険榎津診療所、豊玉町直営水崎診療所



離島を対象にした遠隔医療を経験して

- ・ 病院、診療所の規模、地域性などにより、どの型のシステムの色彩が強くなるかであり、システムの特徴をよく理解し、運用方法を検討することが重要であり、**最終的には、人的連携(病院同士のスタッフの連携)が効率的運用の最大の鍵になる。**
- ・ ブロードバンド時代に入り、画像データの転送時の手間(時間)の問題も改善の方向に向かいそうであるが、全国レベルではもう少し時間がかかりそうである。コスト、転送速度、効率的運用、セキュリティの問題を解決するには、運用経験を豊富にし、さらにいろいろな方々との**経験の共有が必要である。**



学会の取り組み

医療情報学会における 遠隔医療への取り組み

遠隔医療・地域医療推進委員会

委員長 本多正幸(長崎大学)

- 日本医療情報学会の中に2005年、「遠隔医療・地域医療推進委員会」が設立された。
- 日本政府ならびに厚生労働省などにおいても、電子カルテとともに普及すべきシステムとして取り上げられ続けてきたものが、遠隔医療や地域医療である。
- 学会年次大会および春季シンポジウムにおいて、企画セッションを開催し、わが国で遠隔医療・地域医療のシステムに携わってきている方、あるいは関心の深い方々から、関与してきたシステムの紹介を踏まえて、遠隔医療および地域医療の推進に関して抱えている問題点を整理し、わが国のシステムがどのような方向に向かうべきかを議論する。
- 効率的なシステム構築のための 人的ネットワーク、わが国全般規模の スケールでの取り組みに対する人的ネットワークを構築することも重要な使命である。

有意義な情報交換および人的ネットワーク構築の場

医療情報学会2005年(横浜市)

- ・ **企画セッション**
- ・ **1. 香川における遠隔医療・地域医療の取り組みと今後;**
演者 原量宏
(香川大学医学部附属病院医療情報部)
- ・ **2. 北海道での遠隔医療の経済効果;**
演者 廣川博之
(旭川医科大学医学部附属病院経営企画部)
- ・ **3. 長崎における遠隔医療と今後;**
演者 本多正幸
(長崎大学医学部・歯学部 附属病院医療情報部)
- ・ **その他にもテレパソロジー研究会から3題の講演**

医療情報学会2006年(札幌市)

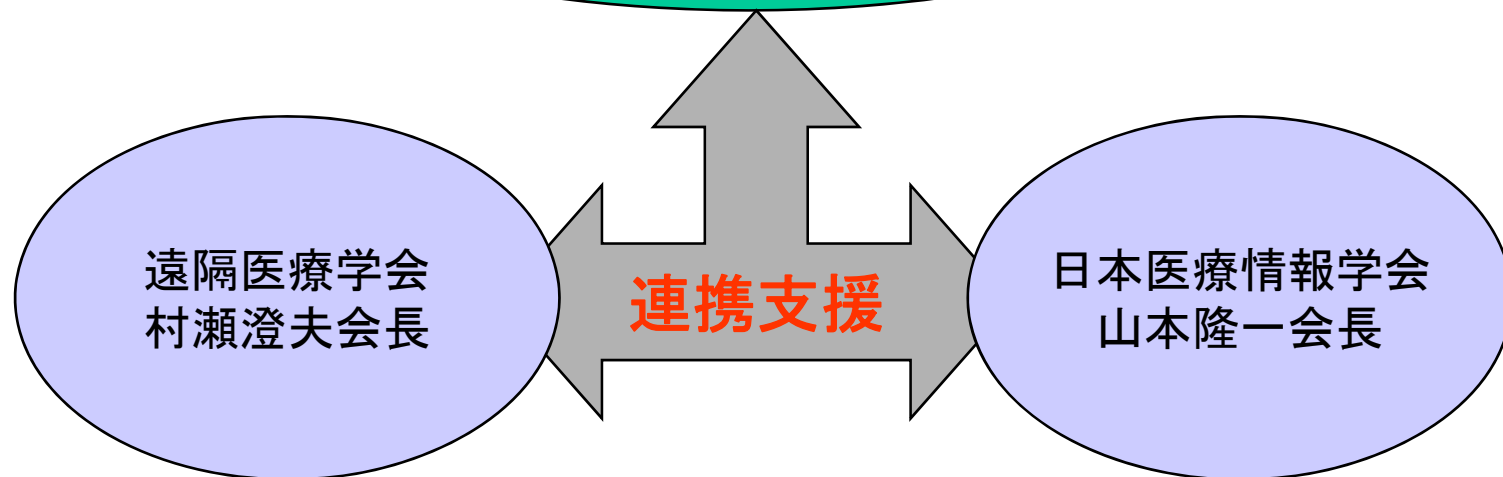
- ・ 国際化時代における遠隔医療

- 1 「長崎大学の旧ソ連に対する遠隔医療支援システムの効果と現状」
横田賢一(長崎大学)
- 2 「高品質動画を用いたインターネット国際遠隔医療プロジェクトの展開」
中島直樹(九州大学)
- 3 「ブータンにおけるセカンドオピニオン〈テレカーディオロジー〉」
中島 功(東海大学)
- 4 「長期海外出向者のITを利用した健康管理」
村瀬澄夫(信州大学)
- 5 「ベラルーシ共和国への遠隔医療支援」
滝沢正臣(信州大学)
- 6 「旭川医科大学眼科が行っている国際遠隔医療」
吉田晃敏(旭川医大)

医療情報学会2007年(神戸市)

- ・ 神戸市医師会との共済シンポジウム
 - ・ 地域連携システムと地域連携パス
- 1 「逆紹介システム」
石川朗宏(神戸市医師会)
 - 2 「熊本型地域医療連携の現況と連携パスの将来」
平山統一(済生会熊本病院)
 3. 「医療機関間連携のための「香川遠隔医療ネットワーク(K-MIX)」
の機能強化」
原量宏(香川大学)
 4. 「あじさいネットワークの取り組み」
松本武浩(長崎大学)
 5. 「脳卒中連携医療システム開発事業」
水野正明(名古屋大学)

遠隔医療・地域医療連携 の推進



遠隔医療の推進のために

医療情報利活用のための 統合データ管理システムの開発

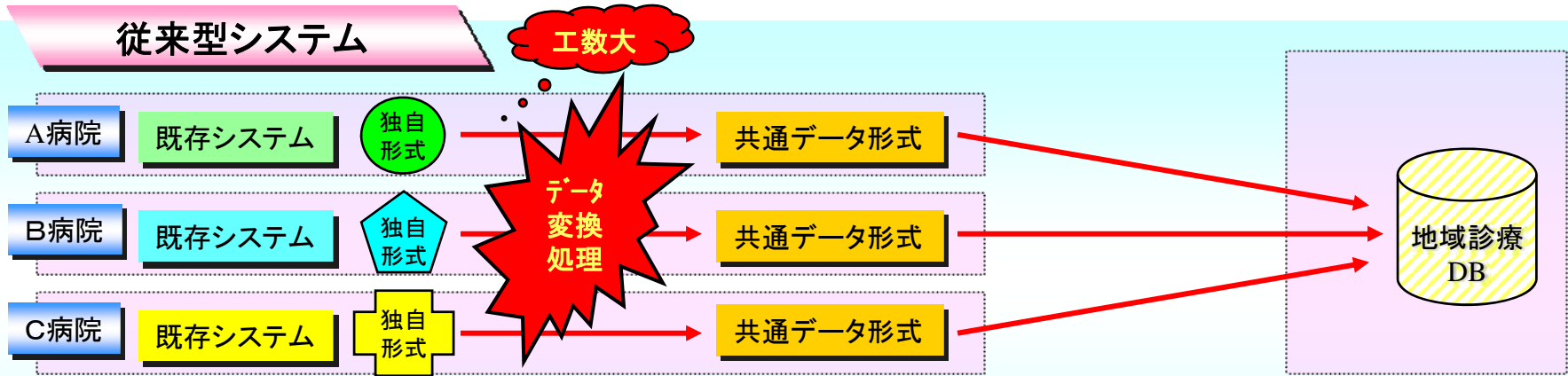
**@患者の基本情報や診療・検査情報の一元管理
と相互活用を目指したシステム**

@標準技術に基づく自動データ変換ツールの利用

**@XMLセキュリティとトレーサビリティに基づく
「安全・安心」な病院間連携のためのデータ
管理システム**

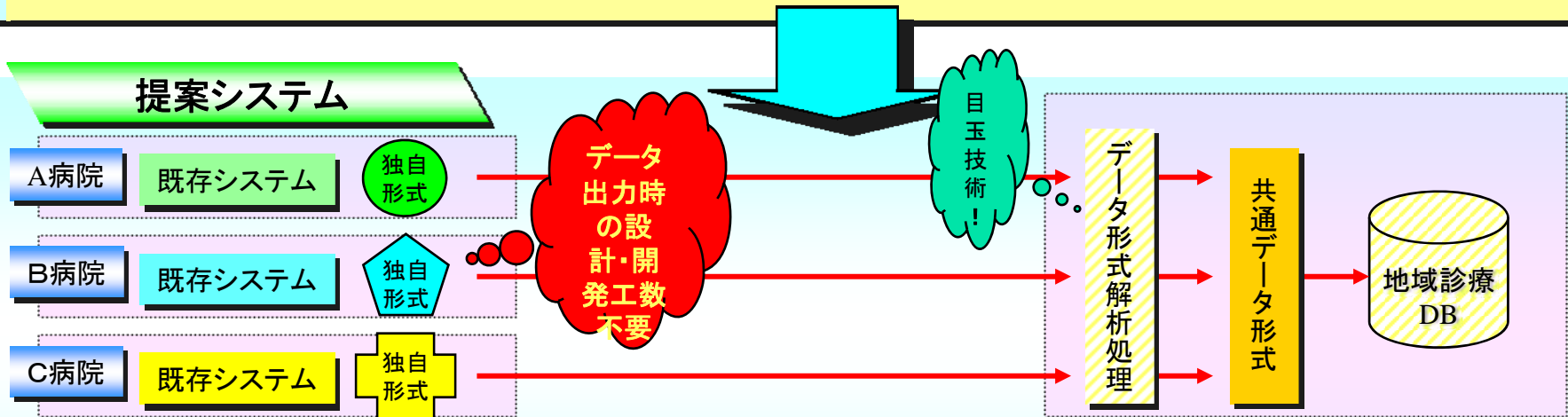
従来型システムと本提案システムの相違

従来型システム



- ・システム構築前にセンタの仕様に合わせてデータ形式を共通化する必要があった。→構築時のコスト大
- ・システムに新規参入する場合には、決められたデータ形式に合わせる必要があった。→システムの拡大性難
- ・データ形式が変更になった場合にはセンタを含めて全ての医療機関のシステムを変更する必要があった。→拡張性、メンテナンス性難

提案システム



- ・システム構築時に医療機関毎の設計・開発が不要。→参加1病院当り概算で50%(1000万円)以上の費用削減
- ・新規参入時既存の独自形式でのデータ出力が可能になった。→システム規模の増大、発展性の向上
- ・方式を変更した場合でも他のシステムに影響することがなくなった。→柔軟な拡張性、システムの汎用性